

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2017. 9

No.289

イナテック特別賞与(クオカード)

支給について

今期、組合の人達との交渉で「マスタープランの営業利益目標を達成したら、特別賞与を出しましょう」と組合代表の山下委員長と約束をいたしました。

そして、第1四半期の営業利益目標を達成することができました。これも全社員の皆さんの努力の結果です。本当にありがとうございます。

そこで、皆さんの頑張りに報い、些少ではありますが、約束どおり特別賞与としてクオカードを支給させていただきます。

今期は方針として「選択と集中」を軸に「不良ゼロ、故障ゼロ」を目指して全社で取組んでいます。皆さんが一步一步着実に、愚直に改善に取り組んでいただいた結果です。

このように全員が一丸となつて目標に取り組んだ効果は、必ず本業の儲けである営業利益に反映されます。

まさしく「会社と組合が一緒になって頑張ろう」という思いが一致した結果です。

会社と組合は車の両輪です。次の第2、第3、第4四半期の目標も達成して、特別賞与が支給できるようみんな頑張ります。

「選択と集中」で、一步一步着実に！

山岡鉄舟修養訓

今回は、臨済宗全生庵住職の平井正修著「山岡鉄舟修養訓」より、私自身が身近に感じ、また、イナテックの企業理念に通じるような部分を皆さんに紹介させていただきます。

『どれだけ自分に厳しくできるか』

最近「褒めて伸ばせ」とよく言う。

しかし、修行道場で褒められるというのは、「こいつはもう伸びない」と見放されることなのだ。

獅子は生まれたばかりの子を崖から谷底に突き落とし、そして谷底から這い上がってきて親の脛(すね)を噛んだ子だけを育てていくという。

褒めるのは簡単だし、無責任でもある。一方、叱るには相手をしっかり見て、かつ自分は相手以上にできるという自信がなくてはいけない。下手をすれば恨みを買うこともある。

褒めると相手は「これでいい」と勘違いする。「これでいい」と思ったら終わりである。

ただ、叱っていく内側には本当の愛情がある。それなくして感情的に怒っていれば、相手にも見透かされる。本当に厳しくするためには自分の中に本当に愛情がなければできないし、自分自身にも厳しくしていかなければいけない。

最近の「褒めて育てる」という耳触りのいい言葉には注意しなければなりません。

『技を磨き、心を磨く』

幕末に剣の道場をつくった鉄舟先生は、剣をきわめることよって心を鍛錬していくことを訴えた。技と心の二つが一緒にならなければならない。いくら剣が素晴らしくても、心が伴っていないならば、ただの殺人の技でしかないと考えたわけである。

我々は技を一所懸命磨けば、心は放つておいてもついてくると思っている。「あの人は苦勞しているから人間ができていく」というわけだ。

実際は、いくら苦勞したとしても人間ができているとは限らない。それどころか苦勞したからこそ臍(そ)が曲がったような人もたくさんいる。

だから苦勞しようがしまいが、人間を練り上げるためには心の修養が欠かせない。そのためには苦勞や厳しい練習とは全く別個の修養が必要なのだ。

イナテックの企業理念にもまさしく、「確かな(製造)技術と磨かれた心」の文言があります。

我々は仕事を通して技術を磨きます。そして、心を磨くためにイナテック木鶏同好会があるわけです。心の修行をするしかないのです。

仕事(技)だけではないけません。どこかの時点で自分の心を変え、木鶏同好会への参加によって、自分の技と心が一つになるということです。また、そうならなければいけないのです。

五二

髮落齒疎、任幻形之彫謝、鳥吟花咲、識自性之眞如。

人は老年になるにつれて、髪は抜け歯もまばらになるが、しよせん、仮幻の肉体であるから、それはしほみ滅ぶに任せておく外はない。しかし、小鳥が楽しげに歌い、花が美しく咲くのを見て、この肉体に宿る一切万有の眞性なるものを悟ることができる。(それは鳥や花となって、永遠に生きること)。

